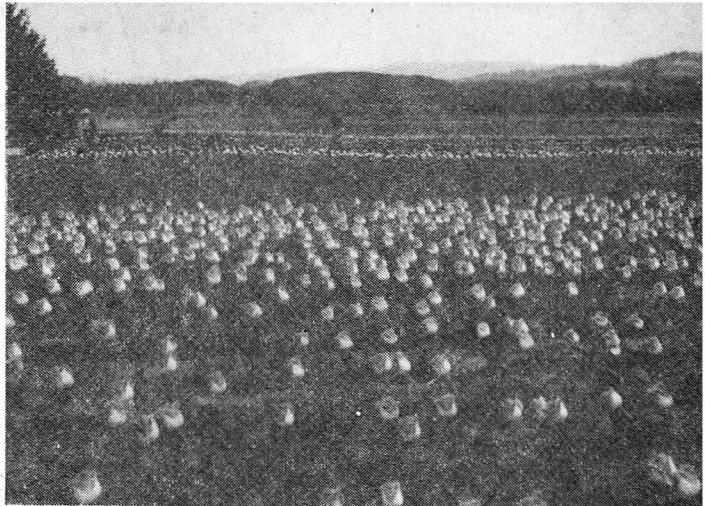


チューリップの つくり方

奥村実義



チューリップはもともとトルコの原産ですが、約四〇〇年むかしヨーロッパへ伝わり、オランダを中心とした各地で改良されたものです。したがって、今日ではオランダが適地としてもっとも大量につくられておりますが、わが国ではオランダに似た気候条件の裏日本一帯において発達し、戦後北海道でもかなり順調に生産されるようになっております。

このハナは、六七月頃（北海道では七月）に球根を掘り取って乾燥したものを貯蔵しておき、九十月頃に植えるものです。が、この間に花芽が球根内にでき上ってしまいますので、花を咲かせるだけならば大ていの場所で育ちます。しかし、球根生産を目的として栽培する場合には、立地条件その他いろいろとめんどうな条件が要求されるものです。

北海道の場合、富山県や新潟県よりも冬が寒すぎることは事実ですが、幸い積雪下の地中温度は根を傷めてしまうほど降がりませんので、雪の多い地帯では心配しなくても大丈夫です。また、春がおくれますので、生育がそれだけおくれ、収穫の遅れをもたらすことは事実ですが、この点もこれまでの経験から克服できるようです。

一方、掘り取りから調整、さらにその後の貯蔵管理の面では、夏の気温が低く、しかも梅雨が軽いだけにやり易いといえますし、球根自体の貯蔵中における養分の減耗および花芽分化の進み工合からみて、明らかに却つて有利であると言えましょう。こうして、いろいろな面から検討してみ

ると、花を楽しむのであれば大ていのことろではまず大丈夫で、球根生産を目的とした栽培でも、道東方面の雪が乏しく凍土のはけしい地方や、生育が著しくおくれる道北地方などを除き、道央および道南地方では立派にやってゆける気候条件を備えているものと判断されます。事実、最近の北海道産チューリップ球根の伸びは、これを充分に裏付けしております。

一 系統と品種

チューリップは園芸雑種、すなわちいろいろな原種およびその交雑種の交配によって作出されてきたものが殆どを占め、ために分類するのはむずかしいのですが、園芸上は大体つぎのようにわけられます。

A 早咲チューリップ

① デュク・ファン・トール

最も早咲きに属し、多くは一重咲きで、花形小さく、弁の先端がやや尖っている。

② シングル・アーリー

（一重早生）

デュク・ファン・トールに
つづく早咲きで、草丈も大きくなり、花色も豊富で、わが国

デニク・ファン・トールに
ついては栽培されていないようです。

（一重早生）

デニク・ファン・トールに
つづく早咲きで、草丈も大きくなり、花色も豊富で、わが国

でも百数十品種栽培されています。花だん用および一部鉢植え用として多く用いられますが、なかには促成用として使われる品種もあります。

○品種が栽培されております。
繁殖力はシングル・アーリーと同様劣る方にはあります。
③ ダブル・アーリー（八重早生）
早咲きの八重で、あたかもシャクヤクの花のような形といえましょ。草丈も前者よりやや低い品種が多く、主に花だん用あるいは鉢植え用に使われ、わが国でも約八

繁植力は概して劣る方ですが、北海道のよう球根収穫期のおくれがちなところで花は、かなり取り入れてゆかねばならぬかと思ひます。

○品種が栽培されております。
繁殖力はシングル・アーリーと同様劣る方にはあります。
④ メンデル
この系統はデニク・ファン・トールと後述のダーヴィンとの交配によってつくられた系統で、一重早生のうちもっとも晩い品種と同じ頃から咲きはじめます。



カイザースクルーン（シングル・アーリー）

り、繁殖力は品種によってまち

まちですが、概してよい方です。

(7) ブリーダー



(ダブル・アーリー) アーリー
ダッチ・ブリーダーとイング
リッシュ・ブリーダーとわけ
られ、わが国では一三〇余品種
が栽培されております。繁殖力

中は程度です。

(8) ダーウィン

草丈六〇センチに達し、花は椀型
で、花色も多く、チューリップ
の各系統中もつとも普及しています。
鮮黄色のものが欠点ですが、わが国で
は三〇〇品種以上が知られています。

繁殖力は品種によって中程度のものもあ
りますが、多くは旺盛です。

(9) パーロット

狂い咲きチューリップとも呼ばれ、花は
大輪で花弁のフチに不規則な深い切れ込み
があります。花色も豊富で、花だん用とし
て数々の品種が知られ、わが国でも五〇品
種ほど栽培されております。

(10) レイト・ダブル

咲きの八重で、早咲き八重にくらべて
開花はおくれるが雄大です。

わが国では四〇品種つくられ、花だん
用として扱われます。

(11) その他

斑入り種や枝咲きなど数系統ありますが
あまり栽培されておりません。

C ボタニカル・チューリップ

いわゆる原種チューリップのグループで
幾つか知られていますが、ホステリアアナ
が栽培されていますが、ホステリアアナ



レッド・エンペラー(ボタニカル・チューリップ)

イギリスやフランスの田園式庭園に植え
こまれた処から、コットページと呼ばれるよ
うになつた系統で、花形は弁先の尖つたも
のもまるいものもあり、また短茎のもの、長
茎のものもあって様々ですが、他の系統に
見られない美しい黄色の品種があります。

わが国でも約一三〇品種栽培されてお
るが、繁殖力はシングル・アーリーなものも
あります。一般的に若干よく、なかにはダ
ーヴィンに匹敵する品種もあります。

繁殖力はシングル・アーリーなものも
あります。一般的に若干よく、なかにはダ
ーヴィンに匹敵する品種もあります。

繁殖力はシングル・アーリーなものも
あります。一般的に若干よく、なかにはダ
ーヴィンに匹敵する品種もあります。

繁殖力はシングル・アーリーのものも
あります。一般的に若干よく、なかにはダ
ーヴィンに匹敵する品種もあります。

繁殖力は品種によって中程度のものもあ
りますが、多くは旺盛です。

二 耕 培

① 土 壤

ひと口に言って、ただ花を咲かせるだけ
ならば、植物が育つ土であればどんな土で
もつくれますが、あの球根のでき工合を
問題にする場合には、砂土ないし壤土とい
うことになります。

地下水が地表下一・三倍くらいのところ

② 肥 料

チューリップの施肥量は場所によって、
また栽培者によって著しく異なりますが、
砂地のように施した肥料の流亡がげん
とうでは多肥栽培を行なうようにし、肥沃
な壤土では少なめにすることです。

とくに球根栽培にあつては、土地土地
に応じた施肥量が考案されなければなりま
せんが、通常は一〇kgあたり窒素二三七二
六kg、燐酸二二・五kg、カリ三

〇kg程度とされており、基肥
としてできるだけ遅効性のも
のを半量施し、融雪後半量を
速効性肥料を用いて追肥する
のがよいと思います。もちろ
んこの量は肥沃地では半分な
いしそれ以下に減量できま

す。

オランダでは大量の堆肥肥
が使用されているようですが、

とカウフマニアナ、エイクレリーあたりが
比較的普及されているようです。

ホステリアナは極早咲きで、北海道では
従来のシングル・アーリーよりも一週間程
度早咲き、矯性の方ですがプリンセスや
レッド・エンペラーなど優秀な品種があり
ます。

カウフマニアナはさらに四~五日早咲き
で、ブリリアント、ゲーテイ、プリムロー
ズなど数品種が発表されています。

このほか、最近ではボタニカル・チュ
ーリップと従来の系統との交雑による新
しい品種がぼつぼつ現われております。

また、増殖率は肥沃な多少重い土の方が
すぐれているようですが、仕上りの点では
砂土の方が球根の外観がよく、裂皮が少な
く、成熟も早いものです。植壤土では球根
の充実がよく、肥大して良球が得られます
が、裂皮しやすい品種はさけるべきです。

球根生産上もとも恐いのは、四~五
月頃に乾燥して六月後半以後温りがありす
ぎることで、こういう条件では圃場裂皮(植
えられたまま土中で外皮が裂ける)が多く
なり、売りものにならなくなります。

が、未熟なものは禁物で、使う前に完熟させたものを施すか、あるいは前作に充分与えておくべきでしょう。

③ 球根の植えつけ

旬頃、厳密に言えば地温が発根に都合のよい挿氏一五度くらい降った頃合いをみるとです。

特大球では一八度、一~二号球では一五度、三号球以下は一〇~一三度、小球は一五~二〇度幅で五一~一〇度間隔くらい、平床にしても結構ですし、また単条ない複数としても結構です。花だん用では三号球以上を用いて、一〇~一五度間隔に植えれば結構でしょう。

まず球根を地面にならべて配置し、移植ゴテを用いて、一球ずつ球床（発根）部を下にして植えこみます。覆土は球根の高さの三倍程度を基準とし、軽い土では少し深めにしてください。

④ 生育中の管理

融雪と同時に一齊に地上に萌芽してきますが、まずは青カビやボトリチスなどによる発芽異常株を調べて抜きとり、トリアジン水和剤四〇〇倍液またはマンネブダイセン八〇〇倍液を散布します。この作業は、その後生育がすすみ、ツボミが現わるまで

に三回行なうことです。と同時に追肥を早めに施すことです。開花期に入ったら、他品種の混入やバイラス病の検査を行なって抜きとり（輸出向球根栽培では開花期に圃場検査を受けなければなりません）、球根栽培では全部の花を

摘みとります。花だんでは花が終り、花弁が散りはじめたら取除きます。

開花後三〇~五〇日たつと、葉が次第に

黄変はじめ、ついに枯れ上ってしまいますので、この頃に注意深く球根の着色状況を調べ、半分くらい色づきはじめた頃に掘りとります。

開花後は気温が高まり、ボトリチンやフザリウムによる病害が多くなりがちなので、絶えず防除が必要ですし、甚だしい罹病株は抜きとつて焼きすべてください。

⑤ 球根の掘りとり

極早咲きのもので六月中旬、早咲き系統では六月下旬~七月上旬、晚咲き系統では七月上旬~中旬頃に掘りとりする（札幌附近）ことになりますが、掘りとった球根はできるだけ風通しのよい日陰で、乾燥箱（浅い木箱）にうすくなべて乾燥します。

乾燥を終えた球根は一球ずつ分離して秋まで涼しい場所（摂氏二〇度くらい）に貯蔵しますが、この間カビの発生に注意することが大切です。

球根の外皮をみて、くすんだ濃色斑のあるものに気をつけ、外皮をむいてみて白い

球肌に茶褐色斑のついたものは警戒することです。病球を入手しないようにしてください。

処理法

① 農硫酸に九分間浸漬水洗

② 同 五分間同

③ 同 三分間同

④ 同 一分間同

⑤ 農硫酸で五分間浸漬後更に硝酸加里二%液に二十四時間浸漬後水洗

⑥ 硝酸加里二%液に二十四時間浸漬後水洗

⑦ 後水洗

御注文はお早目に

（参考）無処理

本年は天候不順の為特にチューリップの球根が不足気味です。植付時も迫っておりますから品切れのならぬ内早目に御発注下さい。

伝染結路となるアブラムシの退治を徹底することは大切ですが、病球を入手しないように気をつけてください。

球根が腐れる恐ろしい病気です。

（フザリウム病）最近多くなりましたが、

生育中急に葉が生色を失い、紫色に変わります。

球根が腐れる恐ろしい病気です。

（アブラムシ）伝染結路となるアブラムシの退治を徹底することは大切ですが、病球を入手しない

ように気をつけてください。

（ボトリチス）ボトリチスはもつとも多発しやすい病気

で、晚咲き系統品種において、掘りとり近くに多いようです。

輪作の徹底と、生育中の薬剤散布で防除することはもちろんですが、掘りとりの遅れすぎもまた注意しなければなりません。

球根の外皮をみて、くすんだ濃色斑のあるものに気をつけ、外皮をむいてみて白い

球肌に茶褐色斑のついたものは警戒するこ

とです。病球を入手しないようにしてください。

球根の外皮をみて、くすんだ濃色斑のあ

ることをおきますが、この間カビの発生に注意

しますが、まだネズミにたべられないように管理

することが大切です。

（北大農学部園芸第二教室・助教授）

秋植球根

研究ニュース

発芽促進処理についての一考察

（参考）無処理

（参考）無処理